

「北海道コンクリート診断士会」設立趣旨書

今、我が国は少子高齢化社会と言われている。一方、戦後社会基盤の整備により造られたコンクリート構造物においても、同様に高齢化が進んでいる。また諸般の事情により更新ができない。すなわち少子化という世相と相俟った現象が起こっている。この結果コンクリートの経年劣化が顕著になり、鉄道・道路のトンネル・橋の庄版などのコンクリート剥落事故が社会問題となっており、コンクリートの延命化が叫ばれているが、コンクリート延命化のための補修技術は、コンクリート構造物は従来メンテナンスフリーという考え方が定着していたことから、あまり研究・研鑽されてこなかった。

以上のような時代の要請を踏まえて、2001年に社団法人日本コンクリート工学協会が永年の調査・研究成果を元に、コンクリート及び鉄筋診断（計画、調査、測定、管理、指導及び判定、劣化予測対策を含む）を目的としたコンクリート診断士制度が創設された。

その後、現時点で約7000名以上のコンクリート診断士が誕生し、各地区で活動し、高い評価を得ているのが現状である。このコンクリート診断技術は、日進月歩であり、またコンクリート構造物は道路、ダム、港湾・漁港、建築物など多岐にわたり、その劣化原因である自然条件、環境、荷重等の種々要因が複合的に作用して、劣化は一様でないことと、これに加えて施工時における資材を含めた生産過程から打設時、養生等の条件が関係し、さらに土木・建築構造物の一品生産という特有な生産過程が劣化原因においても一品毎に異なるということから、コンクリート診断を難しくしている。

このような診断技術を維持するためには、資格取得だけでなく、不断の研鑽が必要であり、ここに「北海道コンクリート診断士会」を設立して、社団法人日本コンクリート工学協会のコンクリート診断士制度の趣旨に基づき、診断士の技術力向上、診断士の品位の保持により、偏らない公正な診断を目指すことで、市民社会の貴重なインフラとなっているコンクリート構造物の健全性を保つことで、社会に貢献することを目的とし、これを果たすものである。

発起人

- ・上原 泰正 北日本港湾コンサルタント(株)
- ・平山 正幸 大北土建工業(株)
- ・奥 義男 三ツ輪ベントラス(株)
- ・大内 義仁 日本データサービス(株)
- ・得地 幹男 (株)濱谷建設
- ・(財) 港湾空港建設技術サービスセンター北海道支部 (SCOPE)